

## 小正月を祝う伝統行事「道祖神祭り」

(2014年1月14日)



### 石原町で町内の山車が巡行

小正月を祝う高崎の伝統祭り「道祖神祭り」が11日、12日に石原町の町内で行われた。

高崎の祭りのルーツとなる「道祖神祭り」は、長い歴史を持つ。道祖神祭りは小正月の13日から14日に行われ道祖神屋台を引き回し、15日に正月飾りを集めてどんど焼きが行われていた。戦争のため昭和14年以降は行われなくなったとされている。

石原町では、高崎本来の山車まつりとも言える道祖神祭りが継続されており、区長の飯野茂さん(82歳)によれば「子どもの頃から長く行われてきた」という。昔は日程が固定されていたが、成人式がハッピーマンデーになったことから、この連休に行くようになったそうだ。

道祖神祭りでは、石原町下一、下二、下三、下四の4町内の山車が巡行し、小祝(おぼり)神社の境内などに4台が集まって共演する。夜になり寒さが増す中、子ども達が山車に上がって太鼓を叩き、周りで地域の人たちがハッピー姿で笛を吹く様子が照明に照らされた。町内ごとにお囃子に特徴があるそうだ。山車が集まる町内公民館では、炊き出しでけんちん汁などもふるまわれ、町内会の枠を越えた住民交流の場になっている。飯野さんは「地域の親睦の機会になっており、伝統を守っていきたい」と話している。